

第1回高等学校部会について

2016年4月13日に中央教育審議会教育課程部会の高等学校部会が開催された。

10:00から12:00まで文部科学省3階1特別会議室で行われた。

一般傍聴者は40名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

- (1) 高等学校の教育課程の改善・充実について
- (2) その他

最初に、小松初等中等教育局長挨拶、19名の委員紹介（うち4名欠席）、主査及び主査代理挨拶が行われた。

初回の開催であるので、これまでの審議状況について説明があった。

教育課程企画特別部会において昨年8月に論点整理が報告された。それに基づいて22の専門部会が設置され、これまでのべ106回の会議が開催されている。「社会に開かれた教育課程」を目指し、総則・評価特別部会が全体像や教科横断的内容を示したうえで、各教科のワーキンググループでは育成すべき資質・能力の整理や科目構成の見直しなど、来月を目途にまとめられるよう議論を進めている。さらに、科目ごとに整理された内容に横串を通すため、学校種別ごとの部会において議論が行われる。

この部会では以下のような点が検討事項として挙げられた。

1. 高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力について
 - (ア) 高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力について
 - (イ) 教科・科目等の構成及び単位数について
2. カリキュラム・マネジメントについて
3. アクティブ・ラーニングの視点をいかした学習・指導の改善について
4. 学習評価の在り方について

11:00頃から議題1（高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力）について意見交換が行われた。主な意見は以下の通りである。

- 新しく導入される科目「数理探究（仮称）」について、探究活動という点で総合的な学習と類似しているため、総合が今以上に活かされなくなるのではという委員がいた。
- 評価については、主体的な態度という心の内面を評価することに困難が伴うので、形骸化してしまうことを懸念する委員は、目標となる資質・能力の文言が重要だと述べた。
- 今後の社会はさらにグローバル化が広がると予想され、外国語や社会だけでなく、教

科を超えて文化的枠組みを考えることが重要となり、生徒が共通して学ぶべきこととして盛り込みたいという意見があった。

- 高大接続システム改革会議において、言語活動や探究活動を評価するために入試に記述式を導入しようとしていることに言及し、教育よりも入試対策になっている高等学校の現状に危惧する委員もいた。
- 学ばせたいことはたくさんあるかもしれないが、全部を課すことが可能であるのか疑問を呈し、各教科の相乗効果や合教科を検討してもよいのではとの意見もあった。また、カリキュラムが単位時間の取り合いになっている現状が変えられるような横串の刺し方にすべきだという意見が出された。

最後に、学力ではなく、資質・能力にしっかりと焦点を当てるべきであるとまとめた。

次回は5月9日（月）10:00～12:00に開催予定である。